

令和3年度 しらかば幼稚園 「自己評価および学校〔園〕関係者評価」

1. 園の教育目標

- (1) 明るいあいさつができる子 (2) 元気に遊ぶ子 (3) 思いやりのある子

2. 本年度の重点目標

○力を入れている活動

- (1) 言葉に親しむ活動・・・読み聞かせ、おはなしの日、選択を自己決定、聞く姿勢作り
 (2) 体を動かしてあそぶ活動・・・園庭での運動あそび、集団遊び、自由遊び、マラソンや体操、ツリーハウス（ターザンロープ）スラックライン
 (3) 自然に親しむ活動・・・植物や昆虫の観察、豊かな自然の中での活動、誕生日会での科学実験

3. 自己評価

A…十分達成されている

B…達成されている

C…取り組んでいるが、成果が十分でない

D…取り組みが不十分である

項目	自己評価内容	評価
教育課程・指導	・園は目指している教育目標、本年度の重点目標を周知している。	A
	・教育課程実施において、教職員は共通理解をしている。	A
保健管理	・日常の健康観察や、疾病予防のための取り組みや健康診断などを行っている。	A
安全管理	・事故やケガ等発生時の危機管理マニュアルが整備されている。	B
組織運営	・園長は教育目標の達成に向けリーダーシップを発揮し、職員をリードしている。	A
	・園運営が適切に機能するために、運営・責任体制の整備を行っている。	A
研修（資質向上への取組）	・法人実施の研修会への参加と、園内研修会の実施をしている。	A
	・日々の保育の振り返りと課題を明確にしている。	A
教育目標・園評価	・幼児の実態、保護者の意見要望などを踏まえた園目標を設定している。	A
	・保護者アンケートの実施と、学校関係者委員会（モニター会）を設置している。	A
	・本年度の重点目標達成のための取り組みをしている。	A
情報提供	・園公開を実施し、園の取り組みを広く情報提供している。	A
	・園の情報を広く公開するために、ホームページ等を活用している。	A
保護者・地域住民との連携	・PTA や学校関係者委員会（モニター会）等で定期的に懇談会を実施している。	A
子育て支援・預かり保育	・地域における保護者の実情や、子育て支援ニーズを把握している。	B
	・保護者の実情や要望を取り入れ、預かり保育・希望保育事業を実施している。	A
教育整備環境	・子どもの成長に則した教育環境になるよう工夫を重ねている。	A

4. 学校関係者評価委員会（モニター会）からの評価

- (1) 園の雰囲気・・・とても良い67% 良い・・・33% 普通0% よくない0%
 職員の対応・・・とても良い・・・50% 良い・・・50% 普通0% よくない0%
 とほとんどのモニターさんが、良い以上の評価となっている。引き続き丁寧な対応をしていき、明るく誠実な保育を継続していく。
- (2) 今以上に園児の皆さんがどのように成長され、どのくらい成長しているのか、成長の姿をたくさん発信して情報提供をして共有できることが、信頼される園として認められる第一条件と考える。
- (3) コロナ禍でも、感染対策をきちんとした上で、行事を行って下さり「子どもたちの安全第一で」行っているのが良い。子どもの笑顔が見え、保護者からも良い声が届いている。
 特に、駐車場からの送り迎えの道で、明るくにこやかな挨拶は園児間、保護者間で見られ気持ち良い。

5. 今年度の総合的な園評価と次年度の課題

- ・ツリーハウス・スラックラインの活用2年目で子どもたちの遊びの幅が広がった。体バランスが良い園児

が増えた。

- 防犯カメラの設置により、不審者対策、防犯対策が強化され、施設や子どもたちの安全管理が強化された。
- トイレの全館、様式トイレ設置により、時代に合った生活様式に対応でき、子どもたちが不安を感じないで排泄指導ができています。
- 子どもに対する危機管理の徹底と子どもの命を預かる自覚を、日常的に職員に徹底していく。
- 主体的な活動についての取り組みは、保育者自身が一公開を行い授業構成の研修を行っている。子どもが考えてやってみるなどの活動を取り入れているが、発達段階により難しく感じる部分があるので、引き続き園内外共に研修をし、教師力を高めていく。
- ラーニングストーリーやホームページで園児の伸びているところをこれからも紹介して行ってほしい。
- 子どもの考えたアイデアを取り入れることで、子どもが考えた技など運動会でも、内容や活動が工夫でき主体的な学びとなった。
- コロナの影響で良くも悪くも”例年通り”とはいけなくなっている。行事（実施の有無、実施方法）やそこに割り振られている領域(分担) など、新年度前に見直し生かしていく。
- コロナ禍の中、感染防止に取り組みながらの園運営で変更縮小が多かったが、子どもを主役にする点においては効果的に運営できたので来年度も子どもを真ん中に据え行事を考えていく。